

令和2年（2020年）各賞の講評一覧

<最優秀解答賞> ※年齢は応募当時のものです。

【問題一】

■砂川 大輔さん（11歳、東京都）

グラフや表などのデータを積極的に活用したり、図示してわかりやすく説明したりするなど、ところどころにくふうが凝らされていました。大仏さまの視野、奈良へのアクセス手段の変遷に関する検討、人口の推移、大仏殿の開館時間など、多角的な視点に基づいての考察は見事です。

【問題二】

■砂川 真慧さん（追手門学院大手前中学校、14歳、大阪府）

南大門の部材を20か所に分けて考察し、重さを検討する際には、梁や柱、屋根瓦、仁王像を細かく分類しながら、1つひとつついでに検証を進めている点が印象的でした。出典を明記している点も評価に値するものといえます。創意くふうや課題に取り組む意欲の高さなど、総合的にすばらしいです。

<優秀解答賞> ※年齢は応募当時のものです。

【問題一】

■和里田 愛実さん（広陵町立真美ヶ丘中学校、13歳、奈良県）

各時代の人口について調査し、鉄道や高速道路などの交通手段の発展に加え、近年増加傾向にある外国人観光客の訪問者数も視野に入れているのは、すばらしいです。まさに、時代の趨勢をとらえた答案といえます。

■大橋 悠生さん（立命館慶祥中学校・高等学校、15歳、北海道）

歴史的なできごとだけでなく、東大寺の年中行事も考慮に入れながら人数を算出している点は、たいへんユニークなアプローチであるといえます。これら双方の検証の過程も緻密な考察をしていることが窺えました。

■ペンネーム：算額の民／佐藤裕樹さん、吉田開人さん、望月湊さん、吉田昂生さん、長谷部航希さん（昭和学院秀英高等学校、いずれも16歳、千葉県）

物理的な見地に基づくアイデアに加え、歴史的なできごとにも触れながら、緻密な考察に基づいて算出している点がとても印象的でした。途中経過の説明がていねいに書かれていることも高く評価しました。

【問題二】

■木下 結愛さん（広陵町立真美ヶ丘中学校、14歳、奈良県）

南大門を独自で考察した図に置き換え、それにもとづいて柱、瓦、その他の木材の部分に分けて考え、結論にいたるまでの細かな検証と表現力はとても立派です。また、データ収集に熱心に励んだことも答案から垣間見ることができます。

■和田 明歩さん（大妻多摩中学高等学校、12歳、東京都）

部材寸法の規格化に関する論文のデータから良い気づきを得ていて、ヒノキにとどまらず、スギやマツの比重に触れていたことから感じられるように、好奇心旺盛でユーモアのあふれる答案でした。既存のデータだけでなく、近似的なデータを活用している点も印象的でした。

<団体賞>

■ 広陵町立真美ヶ丘中学校（奈良県）

各種統計データや文献など、収集した資料を積極的に活用しながら、自分自身のアイデアや考え方をきちんと解答に表現しているのは、主体的に学習活動に参加していることの表れです。そして何より、みなさんが郷土奈良を愛する心を持っていることの証だといえます。

■ 追手門学院大手前中学校（大阪府）

全体的に、解答を導くための途中経過の説明がていねいに書かれていました。また、課題を提起しながら、順序立てて解決していく様子も明快でした。みなさんが平素から探求型や問題解決型の学習を積極的に行いながら、豊かな創造性を育てていることが伝わってきました。